

中学生の自尊感情を規定する要因

松岡英子 ○押澤由記（信州大）

【目的】近年「こころの教育」がとりざたされてきているが、現代の子どもはこころに問題を抱え、人間関係にも脆いという指摘もされている。本研究では学校生活に焦点を当て、中学生の「こころ」の一側面を自尊感情によって捉え、中学生の自尊感情に影響を与えている要因を析出することを目的とする。

【方法】既存研究を参考に調査票を作成し、1999年11月に質問紙法により調査を実施した。対象者は長野市内の大規模中学校4校の中学2年生である。配票数1000、有効回答数867、有効回答率86.7%であった。自尊感情尺度はRosenbergのスケールを参考に「自分は人並みに価値のある人間だと思う」など8項目を加算尺度として用いた（ $\alpha=.81$ ）。影響要因として「教師サポート」「友人からのサポート」「友人へのサポート」「学業への積極性」「学校での出来事」「学校生活満足度」（「教師関係満足度」「友人関係満足度」「学業満足度」「学校生活全般満足度」）を用いた。

【結果】自尊感情尺度を従属変数、本研究で用いた9変数をそれぞれ独立変数として分析を行った結果、「教師サポート」「友人へのサポート」「学業への積極性」「教師との関係満足度」「友人関係満足度」「学業満足度」の6変数が自尊感情に影響していた。このことから、学校生活において教師からのサポートが大きいと評価している生徒、友人に対するサポートが大きいと評価している生徒、学業に対して積極的である生徒、教師との関係に満足している生徒、友人関係に満足している生徒、学業に満足している生徒ほど自尊感情が高いことが明らかとなった。中でも「学業への積極性」が与える影響が最も大きかった。